

# Wish

vol. 38  
2012年9月号



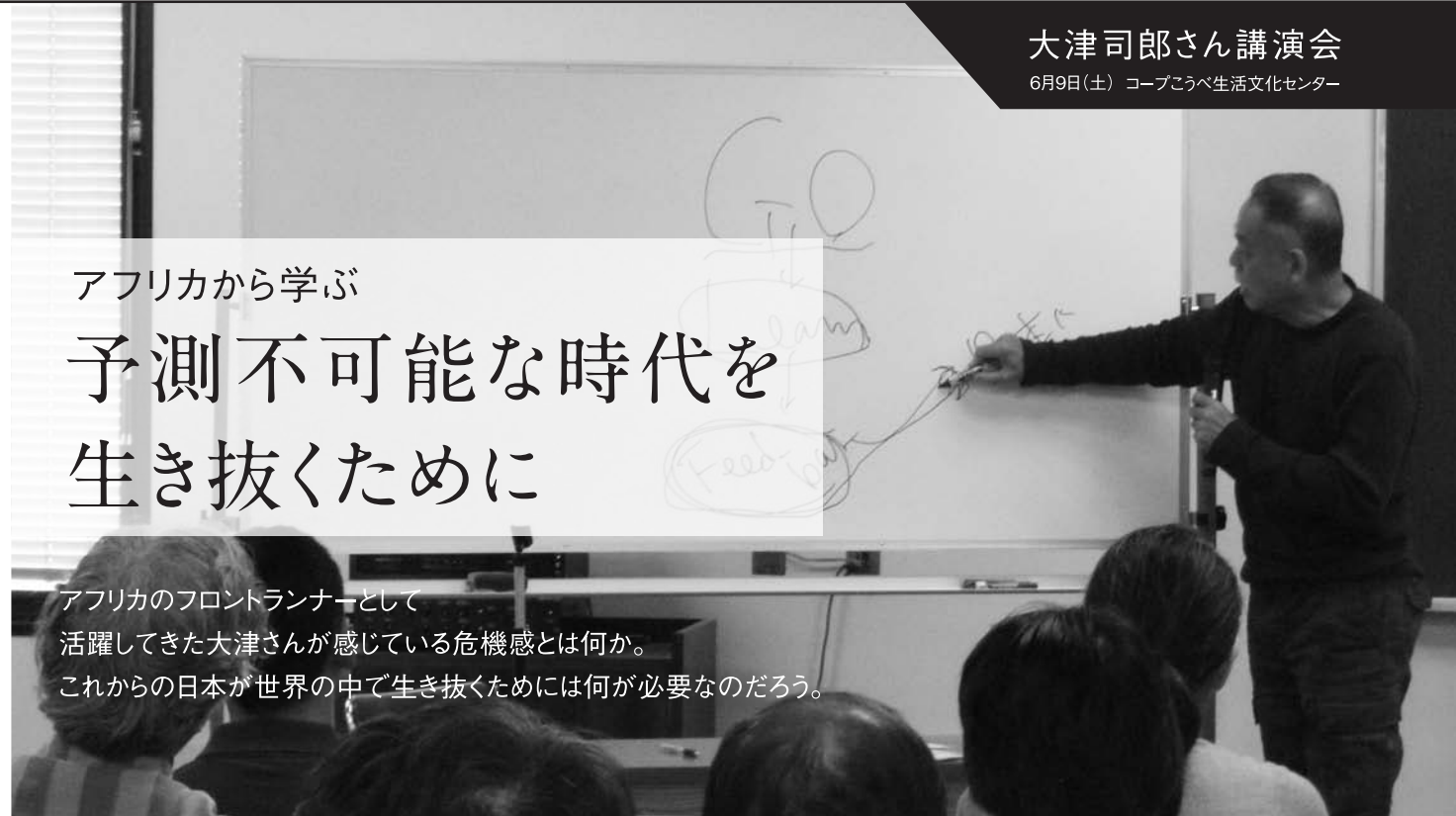
©日本ユニセフ協会

あさひ幼稚園落成式。南三陸町の樹齢300年の杉の木で造られた新園舎。

## CONTENTS

- |     |  |   |                           |
|-----|--|---|---------------------------|
| 2-3 | 大津司郎さん講演会<br>アフリカから学ぶ 予測不可能な時代を生き抜くために<br>子ども未来プロジェクト 2012 | 5 | column<br>東日本大震災とユニセフ活動   |
| 4   | 写真展 <b>EYE SEE TOHOKU</b><br>福島の子ども保養プロジェクト in よしまキャンプ     | 6 | 活動のピックアップ<br>ユニセフ国際教育セミナー |
|     |  | 7 | 活動ファイル                    |
|     |  | 8 | お知らせ                      |





# アフリカから学ぶ 予測不可能な時代を 生き抜くために

アフリカのフロントランナーとして  
活躍してきた大津さんが感じている危機感とは何か。  
これからの日本が世界の中で生き抜くためには何が必要なのだろう。

## 二つの危機感と 世界のヘッドライン

今、僕の中には日本の国について二つの危機感があるんです。

二つ目は、日本が行き詰っているのではということですね。ある学生が「今の日本はグズグズですよ。元気ないし、先に進まないし」と言うんです。学生の国際交流合宿があったんです。留学や外国に出て帰って来た時、国内には受け皿がない。それなら、国際的なキャリアをどう積み重ねていくかというガイダンスをやりました。僕の分科会のテーマは「メディアとアフリカ紛争」です。その中でも「今の日本は閉塞状況にあるのに危機感に気付いていないことが危機だ。分かっているけどどうしていいか分からないことがもつと危機だ」という意見が出ましたね。今、若者の80%が仕事、将来に対して不安感を持っている。これは、日本に住んでいて感じる危機感ですね。



プロフィール

大津司郎さん

1948年東京生まれ。ジャーナリスト。1970年大学在学中からアフリカへ。1975年青年海外協力隊でタンザニアへ。その後、アフリカ関連テレビ番組、主にニュースステーション(当時)、ニュースジャパン、ニュースゼロなどのコーディネーターを務める。1992年アフリカ紛争取材を始める。ソマリア、スーダン、アンゴラ、ルワンダ、コンゴ、ブルンジ、イラク、アフガニスタンへ。現在は、講演会や学生を中心としたアフリカスタディツアーを行う。

ここで問題なのは、こういうことをメディアが取り上げない。世界はどんどん広がっているのにそこにはない危機感。そういう実例がいくつもあるんです。

二つ目は、僕がアフリカにいて見えてきた日本の危機感です。それは、アフリカにおける中国と韓国の圧倒的な存在感ですよ。イコール、日本の存在感が全くないということです。80年代、日本は右肩上がりで行き来していましたが、今、誰もいません。ところが、中国人や韓国人はそこにいるわけです。自分の生活設計でアフリカや中東に行く。人生背負って自分のお金で仕事をしている。そのモチベーションや迫力が全然違いますよね。そこに日本人がいけないということが僕にとっては超危機感なんです。友だちがね、「大津さんね。タンザニアの山奥で韓国人がダイヤモンドの山を掘っているんです。僕は彼らに聞いたんですよ。『君たちは何で英語もできないのに商売できるの』。そしたら、『僕らは言葉ができなくても人間関係が作れるんですよ。日本人にはできない。ましてや今の日本人にはね』って話なんです。このことと、日本人がそこにいないっていうことが僕の中でかぶさってくるんです。

## 世界の中の日本の立ち位置

10年前の日本はどこから目線だった。今は、アフリカの事を自分たちの問題として同じように考えていかなきゃ、僕らは置いて行かれる。国際会議に出た若い人からは、日本が世界から取り残された感があるという。彼らが「技術はまねされるし、追い抜かされるし、日本がすごいって思っているのは自分たち日本人だけだね」って答えていました。

立ち返って考えると、日本人の立ち位置が鮮明に見えてきますよ。僕は若い人に言うんですよ。「お前さ、フィリピンなんてアジアの島だと見ているか。とんでもないぞ。フィリピンの人間がどれだけ世界で活躍しているか、どれだけだけ世界で活躍しているか、どれだけ世界で活躍しているか、どれだけ世界で活躍しているか。ドバイやサウジに行つて働く。これが、今のフィリピンの立ち位置なんだよ」って。

今の日本は、近隣の国との関係にお

リカや中東アジアがですよ。

## 世界の常識 想定外

なぜ、僕がアフリカ紛争取材をするかという、国境に接することです。いい経験が生まれるからなんです。あいつら攻めてくるんじゃないかと考えた時、そこに別の見方や方法、知恵が生まれる。違った言葉からどうやって共通語をつくり、コミュニケーションをとるかを考える時に意欲や情報が生まれる。日本はよくも悪くもそういう体験を勉強したくてもできない。日本って島国じゃないですか。周りに海の国境が自然にできている。島国と大陸との一番の違いは国境。それは、民族が異なる、言葉や文化が違うことを直接知る場なんです。だから出るんです。マイマインドで外に出ていくことが大事なんです。

それに世界つてやっぱり想定外のリング外バトルなんです。日本はリング内バトルですよ。ここで誰かがいきなりピストルを持つてきたとしますね。「おお、これルール違反じゃないか」って思うけど、世界の常識つてたぶんこっちなんです。アフリカ紛争やアフガニスタン、イラク戦争の中には想定外予測不可能なことがいっぱい詰まっています。もう一つはゲリラや武装勢力がいる。どこでもドンパチがあることです。

アフリカを取材して思うことは、絆つていう言葉あるじゃないですか。このアフリカの人たちのネットワークす

る力があるのすごく強い。彼らは地べたの情報を持っている。どこに行ったら食うものがあって水があるか、情報をつけて合、助け合つていく。僕たち日本人が最も勝てない部分がこのネットワーク力です。非常に弱い。

それから、今日のキーワードは予測不可能な局面に遭遇した時に必要なもの。それは解決力ですよ。攻めてきた。あいつらに殺されるんだ。どうやって解決するんだ。この時、何が大事かというスピードと判断力、決断のための情報。それらのすべてがリーダーシップとして問われる。

昨年、チニジアからエジプトにかけてアラブの春がありましたね。あそこには彼らが持っているのは危機感なんです。危機感というのはパワーを生む、同時に絆があるんですよ。仕事がない、デモやっている、家族の誰かはヨーロッパへ出稼ぎに行っている。でも、みんな支え合っている。絆はアフリカやアジアでもがちりあるんですよ。そう考えると、日本には不安感はあるけど危機感はない。不安感というのは後退していく。引つ込んでいく。危機感があればもつとパワーが生まれるじゃないですか。これが、僕がアフリカを取材して一番強く感じるところです。

## ジャーナリスト マインド

僕が取材するときに大事にしてい

## 参加者の声 Voice

私も最近「解決力」のなさを実感したばかりだったので、本当になんとかしないといけないなと思いました。私も含め若い人たちは、親や他人に解決策を教えてもらおうとして、自分で考えないことが問題であると感じました。

(20代・学生)

初めてお話を聞かせていただき、以前よりもっとアフリカに興味を持ちました。日本のネットワークや危機感の乏しさの話は非常に興味深かったです。私もケニアに滞在していたことを思い出しました。学ぶことがたくさんあるはずなのに、アフリカに関心のある日本人が世界の人に比べるとまだまだ少ないことは悲しいです。

(20代・学生)

アフリカを起点に日本を見る視野が広がったような素晴らしい講演会でした。日本という島国は本当にグズグズしていると思います。保守的で何か1つを変えることにすごく時間がかかってしまう。昔は通用していたかもしれませんが、今は全く通用していないのに。いつまでたってもこれ以上の日本成長は無理です。JAPAN Timesで読みましたが、海外に留学して帰ってきてても企業が採用しないそうです。

(20代・学生)

参加者 42人



column コラム 東日本大震災とユニセフ活動

# 感謝の連鎖

## - 1年5か月を振り返って -

今回の日本ユニセフ協会の支援活動は「Build Back Better」(被災前よりも、より良い状態になること)を目指し、大きく6つの取り組みを進めてきました。初期はまず、何よりも水、食料などの物資を行き渡らせることが大事だったので、被災各地の避難所などへの物資支援を目的とする「緊急支援物資の提供」を行いました。

これに関しては(これ以外に関してですが)、宮城県ユニセフ協会の五十嵐栄子事務局長はじめとするスタッフの方々、生活協同組合の方々には本当にお世話になりました。被災各地の避難所などへの物流ルートを生活協同組合が確立していたことも大きかったですし、緊急支援の経験はあるが、全く土地勘のない全世界から集まった国連で働くユニセフスタッフへのアドバイスは大変貴重なものでした。

最近、宮城県庁や他の子ども支援団体と行われている会議の際「次回震災が起きた時のためにどう備えるか。今回各団体が良かった点、悪かった点は」という話し合いの中では、必ず「日本ユニセフ協会では県協会があったため、いち早く支援活動を行うことができた」という話をしています。

また、宮城県庁はじめ、行政の方々とお

話する際にも必ず言われることは「日本ユニセフ協会さんは、とにかく支援活動が早かった」と感謝していただけるのも、やはり県協会の存在が大きかったことは間違いないので、次回何か起こったときにも、今回のような日本ユニセフ協会と県協会の連携がうまく進むようにノウハウのシェアしておくことが非常に大事だと思いました。震災時には支援物資と本当に必要な物資のマッチングをするコーディネート業務が非常に必要だなあということも、つくづく感じました。

また「何か起こったときのための備え」ということでもひとつ大事な話をさせていたが、今回の日本での支援活動の現場に来ていただきたい、ということです。ご存じのように、日本ユニセフ協会の支援活動は発展途上国のための支援ですが、今回は50年ぶりに日本国内での支援活動が行われました。海外だとなかなか支援現場を見に行くことは難しいですが、国内であれば現場を見、支援の先にいる方々の声をたくさん聞くことができます。そういった声を聞いていただき、ふだん日本ユニセフ協会の募金活動に協力してくれている方々にぜひ伝えていただければなあと思います。5月に兵庫県ユニセフ協会の福井事務局長を

日本ユニセフ協会東日本大震災緊急支援本部  
広報官兼幼稚園・保育園再建支援担当

若林 直子さん

はじめとするスタッフの方々宮城県に来てくださった際には、支援活動をしている南三陸町の佐藤仁町長が「こういった方々がうちの町の復興を担ってくれているんだなあ」としみじみおっしゃっていましたし、再建支援をしているあさひ幼稚園の先生方も「こういった方々のおかげで園舎が建てられるんですね。遠くから来てくださってうれしい」ととても感激していました。

最後に、みなさんにぜひお伝えしたいことは、私が支援活動をしている中でとてもうれしいな、と思ったことは、最近特に、被災地の方々から「ユニセフさんに恩返しをしたい」ということを言われます。小学校の先生からは「ユニセフさんがずっと入ってくださっていたら、子どもたちが『ユニセフって何?』『ユニセフに入るためにはどうしたらいいの?』としきりに聞いてきます。これが子どもたちの将来の夢につながればいいと思っています」とのお言葉をいただいたり、南三陸町の佐藤仁町長からは「俺はもうユニセフに恩返しを始めたよ。ユニセフの募金箱を見つければ必ず募金するようにしているんだ」と言われたり、再建支援をしている山元町のふじ幼稚園の赤沼恒信理事長からも「園ができればユニセフさんの募金箱置くから。園に子どもたちがたくさん戻ってきて経営が安定したら、今度はうちがユニセフさんに恩返しする番だから待っててな」と言われたり、その他、被災地のたくさんの方所で「ユニセフさんに恩返し」というお話を聞きます。こういった「恩返し、感謝の連鎖」を広げていくためにも、引き続き支援活動を頑張っていきたいと思っています。そして、この活動を続けられるのはふだんの県協会の皆さんの募金活動のおかげですので、改めて感謝申し上げます。



①あさひ幼稚園仮園舎園庭  
②南三陸町長を表彰訪問

## 写真展

# EYE SEE TOHOKU

子どもたちの目が見る被災地の今と明日

メイン会場 神戸市役所市民ギャラリー 8月13日～26日  
サブ会場 コープこうべ生活文化センター展示室 8月10日～22日  
主催 兵庫県ユニセフ協会・日本ユニセフ協会 / 協力 ソニー株式会社

## 写真展の裏側にあるストーリー

昨年、東北3県で行われたワークショップには、小中学生27人が参加。講師は、21年間ユニセフと一緒に仕事をしてこられたイタリア人写真家ジャコモ・ピロツィさん。子どもたちは、ジャコモさんから世界の子どもたちが暮らしている状況や抱えている問題について話を聞き、写真の本格的な撮影技術指導も受けました。

漁師町として栄えた岩手県大槌町から参加した吉里吉里中学校の子どもたちは「大変なことがあったけれど、海とか、きれいな自然を背景にして、頑張っている人たち」を撮ることにしました。

鯨の町として名をはせた宮城県石巻市の鮎川小学校の子どもたちは「みんなの笑っている顔」を撮りたいと思いました。400年の歴史ある町福島県相馬市から参加した小中学生は、放射能のことが気になりながらも「おじいちゃん、お



©UNICEF/Japan2011/Giacomo Pirozzi

ばあちゃん、家族の普通にしているところ」を撮ることにしました。

「中心をずらして撮るといいね」「角度を変えながら何枚も撮るといいね」などのジャコモさんのアドバイスを聞きながら撮影は進み、キャプションが添えられ、写真はパネルに仕上げられました。



## 福島の子ども保養プロジェクト in よしまキャンプ

日時 7月29日～8月2日  
場所 香川県余島 神戸YMCA余島野外活動センター  
共催 コープこうべ、こうべYMCA、兵庫県ユニセフ協会



## おもいきりキャンプ 小学生30人を招待

真夏の太陽が明るくまぶしい。海水浴、カヌー、カヤック、釣り、アーチェリーに挑戦しながら、子どもたちは友だちやリーダーと仲間になり触れ合いました。ルールは一つ。「自分の命は自分で守ること。そして自分の命を守ることが出来たら、隣の人のことも守る」。

最後の夜のキャンプファイヤーで、福島大学の学生の「僕は福島で生まれ、育ち、これからも福島で生きていく。そしてこの子どもたちを守っていきたい。また、自然は最高の学習の場であることを教えてくれた。」と言った言葉は、子どもたちに力強いエールとして届いたのではないのでしょうか。



## 活動履歴

|  |
|--|
| 5/11(金) 早川千晶さん講演会                                |
| 5/19(土) 第2回ボランティア入門講座                            |
| 5/20(日) 神戸まつり                                    |
| 6/9(土) アフリカ講演会                                   |
| 6/24(日) みちのく談話室1周年記念                             |
| 6/30(土) 第3回ボランティア入門講座                            |
| 7/7(土) コープこうべ生活文化センター30周年記念七夕まつり                 |
| 7/11(水) 神戸大学附属住吉小学校学習会                           |
| 7/14(土) ユニセフ七夕セミナー                               |
| 7月21日(土) めだかの学校                                  |
| 7/22(日) コープこうべ第1地区平和のつどい                         |
| 7/26(木) 大阪北地区平和のつどい                              |
| 8/3(金)・8/4(土) ユニセフ広場                             |
| 8/4(土) 国際教育セミナー                                  |
| 8/10(火)・8/22(水) 写真展EYE SEE TOHOKU(コープ生活文化センター会場) |
| 8/13(月)・8/26(日) 写真展EYE SEE TOHOKU(市役所市民ギャラリー会場)  |
| 8/18(土) 地球のステージ                                  |
| 8/21(火) コープこうべ定時職員協議会平和集会                        |
| 8/28(火) 神戸市西区あさひ児童館出前学習                          |

## 1 神戸まつり

5月20日(日)に行われた神戸まつりに、今年創立10周年を迎えた兵庫県ユニセフ協会も参加。ボーイスカウト、ガールスカウトの皆さんとともに女子大学生ふんするくーまんやピエロさんもパレードに華を添えてくれました。



## 2 ユニセフ広場



8月3、4日の2日間、神戸市東灘区のピューター住吉館1階ギャラリーで日頃触れることのできない支援物資などを展示。自由に、「見て・聞いて・触って」ユニセフ活動を身近に感じていただきました。

## 3 学習会の様子



▲7月11日(水) 神戸大学附属住吉小学校の6年生  
8月28日(火) あさひ児童館の子どもたち

## 4 ユニセフ七夕セミナー

四国・中国・近畿地方の各府県のユニセフ協会が合同で行う研修会「七夕セミナー」が7月14日(土) 香川県高松市で行われ、兵庫県ユニセフ協会からは14人が参加しました。

震災直後の4月から岩手県での緊急支援活動に参加してこられた小松真理子さんは、情報を提供し合いながら他団体や企業と協力して支援活動が行われた様子などをお話し下さいました。

午後は、大阪府立大学准教授の伊井直比呂先生のESDについての講演とワークショップがありました。ESDというのは、人々が安心して暮らせる未来であり社会だそうです。その後行われたワークショップでは、「今朝から今までに何回『ありがとう』を言いましたか」という先生の質問にこれこれと考えるうちに心が和み、ESDには相手を思いやる気持ちが大切であることを学びました。



## 寄り添う思いを持ち続けよう

## ユニセフ国際教育セミナー

会場 コープこうべ生活文化センター  
日時 8月4日(土)

震災から2度目の夏、  
被災地の子どもたちの現状と  
心のケアの話をお聞きしました。

## 災害と心のケア

## 中村 経子

兵庫県臨床心理士会スーパーバイザー  
南三陸町でスクールカウンセラーを務める

災害に対峙した人にどんなふうにお手伝いをしていくのか皆さんにお話します。

震災から半年後の小学校では、子どもたちは本音は言いづらいので、ゆっくり話す時間をとる必要があります。

たったひとり、たった1回の出会いがその人の人生を変えてしまうことがあるわけですから、カウンセリングにおいてもそういうことが日常よく起こります。出会いによって、もう少し頑張ってみよう、やってみようという気持ちになることができれば、こんなにうれしいことはありません。

さて、災害にあった子どもたちは、青・黄・赤信号の3つの状態に分かれます。青信号の子が黄信号に、黄信号の子が赤信号に行かないように、予防に務めるのが心のケアです。

ところで、災害の直後は誰だって、赤信号になります。時間とともに、落ち着いていくものですが、中には固定化する人がいます。落ち着くには、この人と一緒にいるとホッとするという安全感と、この人といても大丈夫、安心だなどという感覚が必要です。人との良いつながりが安心感につながります。また、自分の体験を言葉にしたり、子どもの場合は、遊びを通して、自分の体験を表に出すということも大切です。さらには、自分でも役立つことを探そうとするチャレンジも有効です。そして、自責の念とか、こんなふうを感じるのは自分だけだという孤立感を持つ子どもには回復の方法は必ずあると、積極的に伝えていくのがこれからの心のケアです。



小学生が書いた『石巻未来新聞』を読みながら



中村先生からのアドバイスを聞く

## 石巻を忘れないで

## 青山 博之

宮城県東部教育事務所次長 石巻市在住

震災後、石巻駅、自宅周辺などは、1週間水が引きませんでした。大和橋のたもとには、今も被災した車両や、高さ5mのガレキの山が残されています。津波の直撃を受けた学校の入口は、ほとんどベニヤ板に覆われています。津波により海岸線や北上川沿いの学校は大きな被害を受け、現在も他の学校や仮設校舎を使用しています。

そして、子どもたちの一番の問題は体力の低下です。女川では、1週間で体育と休み時間を除いた運動時間が1時間にも満たない子どもが3人に1人です。

次に学習面ですが、石巻と東松島の中学校では授業時間が足りません。そこで、昨年度は土曜日に授業をしたり、長期休業を短くしました。

さらに、震災後は小学校、中学校とも不登校、不登校傾向の子どもがあり、中学校では校内暴力もあります。これからは子どもたちの心のケアが求められると思います。私たち学校教員は、小学生、中学生が将来の石巻を背負って立ち、復興の担い手になるというところに明るい希望を抱かせながら、まっすぐ生きてほしいと考えています。暴力でしか自分の気持ちを表現できない子どもたちも、それはそれとして認めながら、いいことはいい、悪いことは悪いというようなことを、しっかりと指導していかなければいけないと思います。

これからも、皆様のご支援、ご協力をいただければありがたいと思います。どうぞ、宮城、石巻を忘れないでください。

地震や津波で傷ついても、ホッと  
する安心感で回復していく子ども  
たち。その子どもたちが、まっすぐ  
に生きてほしいと願う人たち。  
おふたりのメッセージを受けと  
めながら、ともに話し合い、できる  
ことを考え、これからもみんなで東  
北を応援していきたいと思いま  
す。(酒井明子)

参加者 29人



## ユニセフ募金 Donations For Unicef

### ■ 通常募金

| 通信欄記載事項  | 振替口座          | 手数料 |
|----------|---------------|-----|
| K1-280兵庫 | 00190-5-31000 | 免除  |

### ■ 緊急・復興募金

|         | 通信欄記載事項             | 振替口座           | 手数料        |
|---------|---------------------|----------------|------------|
| アフリカ干ばつ | アフリカ干ばつ<br>K1-280兵庫 | 00190-5-31000  | 免除         |
| 東日本大震災  | 東日本大震災<br>K1-280兵庫  | 00160-2-372895 | ご負担<br>下さい |
| ハイチ地震   | ハイチ<br>K1-280兵庫     | 00190-5-31000  | 免除         |
| 自然災害    | 自然災害<br>K1-280兵庫    | 00190-5-31000  | 免除         |
| 人道危機    | 人道危機<br>K1-280兵庫    | 00190-5-31000  | 免除         |

\*共通口座名義:公益財団法人 日本ユニセフ協会

## あなたもボランティア! Volunteer

ユニセフという言葉は知っているけれど、どんな活動をしているんだろう。世界の子どもたちのために、私のできることはなんだろう。「できる人ができることを できる時に」活動しています。お気軽にご連絡ください。

# Wish

ユニセフ兵庫ニュース  
vol. 38  
2012年9月号

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2012年(平成24年)9月発行

発行: 兵庫県ユニセフ協会

住所: 〒658-0081

神戸市東灘区田中町5-3-18

コープこうべ生活文化センター4F

電話: 078-435-1605

FAX: 078-451-9830

(お問い合わせは平日の10:00~16:00)

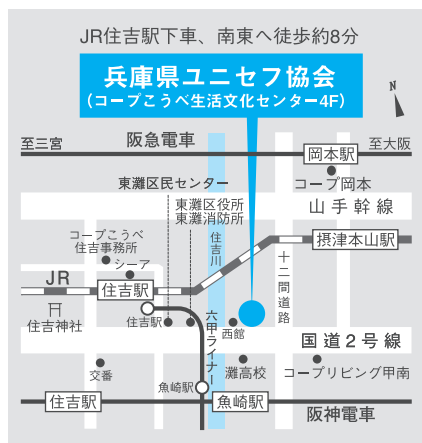
●最新の情報はホームページで

<http://www.office-bit.com/unicef-hyogo/>

兵庫県ユニセフ協会

検索

●兵庫県ユニセフ協会への案内図

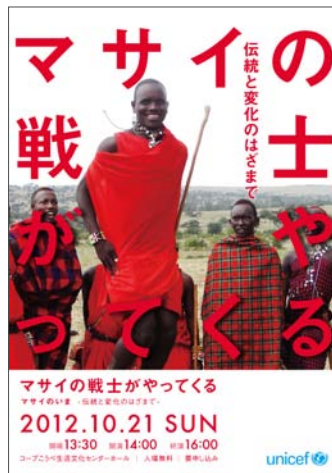


## Join Us 主催イベント

### マサイの戦士がやってくる

日時: 10月21日(日)14:00~16:00

会場: コープこうべ生活文化センター2階ホール



戦士時代には7頭のライオンと1頭の象を仕留めたというマサイの男性ジャクソンさんに、映像ともに、アフリカの自然、マサイの人々の暮らし、アフリカが直面する状況などをお話しいたします。ジャクソンさんとの交流もお楽しみください。(入場無料/要申込)

お申し込み、お問い合わせ先

事務局 078-435-1605

### ユニセフボランティア講座 ユニ・ボラ塾

日時: ① 10月20日(土) 13:00~15:00

② 11月17日(土) 13:00~15:00

会場: コープこうべ生活文化センター会議室

### ユニセフハンド・イン・ハンド街頭募金活動

日時: 12月23日(日・祝) 11:00~13:00(予定)

会場: 姫路、加古川、垂水、須磨、元町、三宮、住吉、芦屋、西宮、伊丹、宝塚など

1979年の国際児童年に始まり、今年で34回目を迎えるユニセフハンド・イン・ハンド募金は、誰でも参加できるボランティア活動です。さまざまな場所で、厳しい状況に置かれた子どもたちへの支援を呼びかけます。



## NEWS お知らせ

### 2012ユニセフカップ 西宮国際ハーフマラソン

日時: 11月11日(日)

すっかり人気となったユニセフカップ西宮。参加料の一部がユニセフを通じてアフリカの子どもたちの支援に使われます。ふるってご参加ください。また当日は、カードなどの頒布も行いますのでぜひお立ち寄りください。

主催: サンケイスポーツ、西宮市体育協会、産経新聞社 特別協賛: 日本ハム

### ユニセフのつどい

2013年3月10日(日)「第11回ユニセフのつどい」を行います。お楽しみください。

### ユニセフ・カードとギフト 秋・冬号2012



ユニセフ製品をご利用いただくことで、定価の約50%がユニセフの活動資金として世界の子どもたちの幸せと輝く未来のために役立てられます。毎月7日には、コープこうべ生活文化センターでカード頒布を行っています。詳細については、事務局までお問い合わせください。

## BOOTH 出展参加

10/27(土) 28(日) きょうどう学苑祭

11/10(土) 11日(日) 兵庫県ふれあいの祭典

12/1(土) にしのみやふるさとウォーク

## ユニセフひょうごサポーター(賛助会員)募集中!!



賛助会員となって、兵庫県ユニセフ協会の活動を支援してください。お申し込み、お問い合わせは事務局までお願いいたします。